



大塚教育

令和8年度7月号
文京区立大塚小学校
校長 山下 智美
3946-3421

学校で得られること、家庭で得られること

校長 山下 智美

1学期も残すところあと3週間ほどとなりました。子どもたちは「夏休み」を目の前にして気持ちが高揚したり、自分の目標に向かって頑張ろうと気合いを入れたりしている頃かと思います。学校では学期末ということで、これまでの振り返りをし、1学期で成長できたこと、もう少し努力すべきことを一緒に考え、夏休みをよりよく過ごせるような時間をつくります。

さて、小学校では、6～12歳の子どもたちが一緒に学び、生活しています。これだけ年齢の幅が広いと生活の仕方もだいぶ違うので、学年が上がれば上がるほど、「こんなことまで一人でできているんだ」「協力しながら活動しているな」「下学年のことを意識してくれているな」と感じられ、嬉しいです。

中でも、高学年の立ち居振る舞いはとても重要です。高学年が全校朝会のときに静かに整列していると、そばにいる学年からだんだん静かになります。なかよし班でのリーダーシップも頼もしいです。また、校外学習に出るとき、担任たちは「みんなには大塚小の『顔』として行動してほしい」と伝えています。子どもたちはその意味をよく理解し、しっかり行動します。その経験がさらに自覚を高め、校内でも下学年の手本になっていきます。

保護者の皆様からも、行事のアンケートで「我が子も高学年になると、こんなことができるようになるのかと思うと楽しみです。」というメッセージを必ずいただきます。私たちは親ではありませんが、子どもたちの姿が多くの方に輝いて見えていることを誇らしく感じる瞬間です。この「小学校」という場が、これからもなくてはならない場所であり続けるよう、私たち教職員も指導・支援を積み重ねていきます。

夏休みは家族での団らんや普段は出会わない人からの学びなど、学校ではできない経験ができたらいと思います。2学期、成長した子どもたちに会うことを楽しみにしています。

<大塚の窓>

養護教諭 島村 はるみ

4月から行ってきた健康診断を全項目終えることができました。ご協力ありがとうございました。今回、治療や受診が必要な疾患が見つかった人も、すべて「異常なし」だった人も、自分の身体の様子を考え、例えば何を続け、何を改善すべきかをしっかりと考えることができる機会となればと思います。

検診や検査はただ受けるだけでなく、日常ではあまり意識していないことを考えたり感じたり、それはとても大切なことだと思います。この機会にご家庭でも、健康や生活について話題にいただけると幸いです。

日頃、保健室で子供たちと接していて気になることがあります。来室時に自分の身体の状態を理解し、適切に伝えられる子がいる一方、「痛い」「けが」という言葉のみで訴えてくる子もいます。自分自身の言葉で自分の身体の状態等をきちんと伝えられる子供になってほしいと思っています。

子供たちが自分の身体を把握し伝えたり、気持ちについても考えたりしていけるよう声掛けや保健だよりの内容を工夫しながら健康教育を推進し、「自分の身体は自分で守る」ことができるように保健室から見守っていきたいと思います。

7月の生活目標 「ものを大切にしよう」

生活指導主任 富田 康輔

学校には、机や椅子、教科書やノート、タブレット端末、プールやビート板など、学習や生活を支えるたくさんの教材・教具や備品があります。学校では、児童が安全に活動できるよう、日頃から点検や整備を行い、これらを大切に管理しています。

今月の生活目標は「ものを大切にしよう」です。みんなで使うものは次に使う人のことを考えて丁寧に扱うこと、自分のものは記名をし、最後まで責任をもって使うことを大切にしてほしいと思います。

ものを大切にするとは、ものそのものだけでなく、それを準備したり支えたりしてくれている人への感謝や、周りの人を思いやる心にもつながります。学校でも、ものを大切にする姿勢を通して、感謝と思いやりの心を育んでいけるよう指導します。